

# 関西経済レポート(12月号)

- 10月の鉱工業生産指数は前月比+1.3%上昇した。2カ月連続のプラスであるが回復は緩やかである。
- 11月の輸出額は前年比+6.4%と21カ月連続のプラス。輸入額は同-0.3%と3カ月ぶりのマイナス。結果、貿易収支は-219億円と2カ月ぶりの赤字も、赤字幅は前年同月比-79.3%縮小。
- 11月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続の前月比マイナス。先行き判断は3カ月連続の悪化。同月の消費者態度指数は4カ月連続の悪化。消費者心理の停滞感が増してきた。
- 11月の大型小売店販売は5カ月連続の前年比プラスで小幅改善を続けている。
- 11月の新設住宅着工戸数は3カ月連続の大幅減。持家と分譲が減少に寄与した。
- 11月の有効求人倍率は2カ月連続で改善し高水準を維持。足下雇用情勢は堅調が続いている。失業率は2カ月連続の改善だが、非労働力人口増加が要因とみられる。
- 11月の公共工事請負金額は前年比-20.0%と2カ月ぶりの大幅マイナス、季節調整値では2カ月連続で前月比大幅マイナス。10月の建設工事は前年比+3.0%と30カ月連続のプラスも、伸びは7カ月連続で1桁。
- 11月の中国の景況指数はすべての領域で前月から悪化した。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所  
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

## ～ 関西経済のトレンド ～

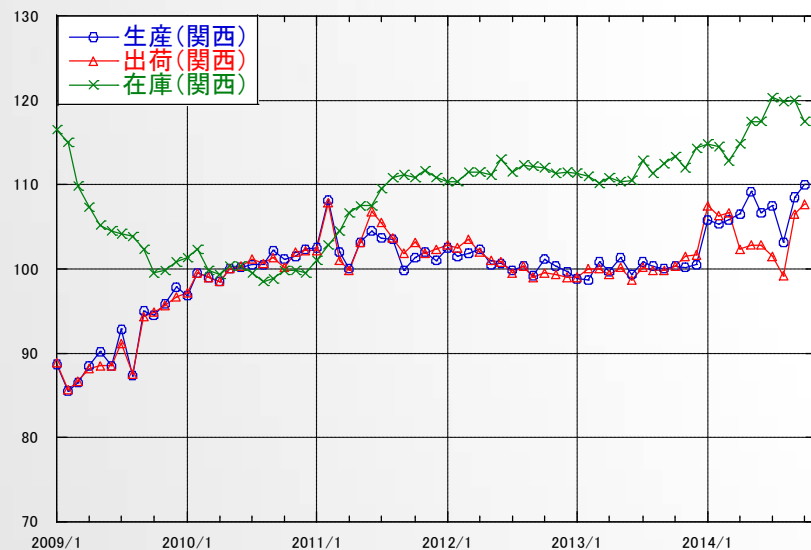
	2013年	2014年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	➡	➡	➡	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	/
貿易	↘	↘	↗	↘	↗	➡	↘	↗	➡	➡	↗	↗
センチメント	➡	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘
消費	↗	↗	↗	↗	↘	➡	➡	➡	↗	↗	↗	↗
住宅	↗	↗	↘	➡	↗	↘	➡	↘	↗	↘	↘	↘
雇用	↗	↗	➡	➡	➡	↗	➡	➡	➡	➡	↗	↗
公共工事	↗	↘	↘	↘	↗	↗	➡	➡	➡	↘	↗	↘
中国	➡	➡	➡	➡	➡	➡	↗	↗	↘	↗	➡	↘

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

# ～生産～

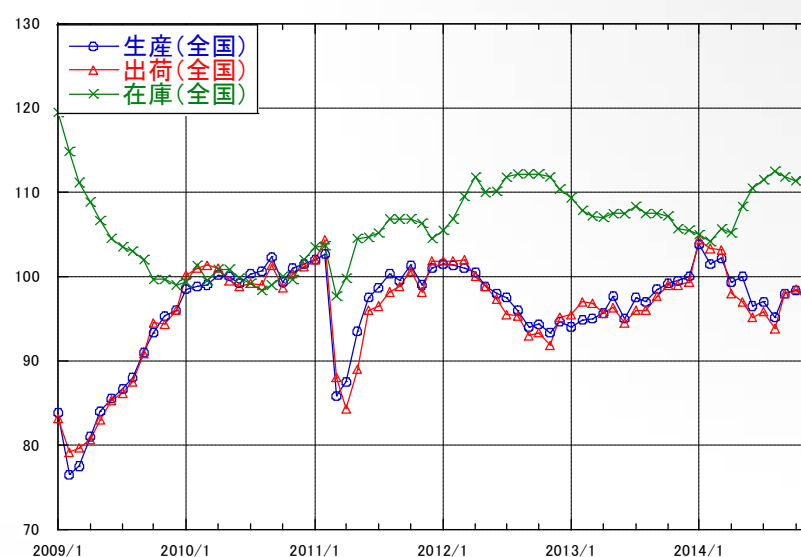
鉱工業指数の推移(関西・2014年10月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における10月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は110.0で前月比+1.3%、出荷は107.7で同+1.1%といずれも2カ月連続の上昇。一方、在庫は117.6で同-2.0%と、2カ月ぶりの下落となった。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+9.8%)、情報通信機械(同+4.4%)、プラスチック製品(同+2.2%)等が上昇した。一方、金属製品(同-8.9%)、電子部品・デバイス(同-5.5%)、窯業・土石製品(同-4.8%)等が下落した。
- 関西の生産動向は2カ月連続のプラスであるが回復は緩やかである。

鉱工業指数の推移(全国・2014年11月まで), 2010年=100

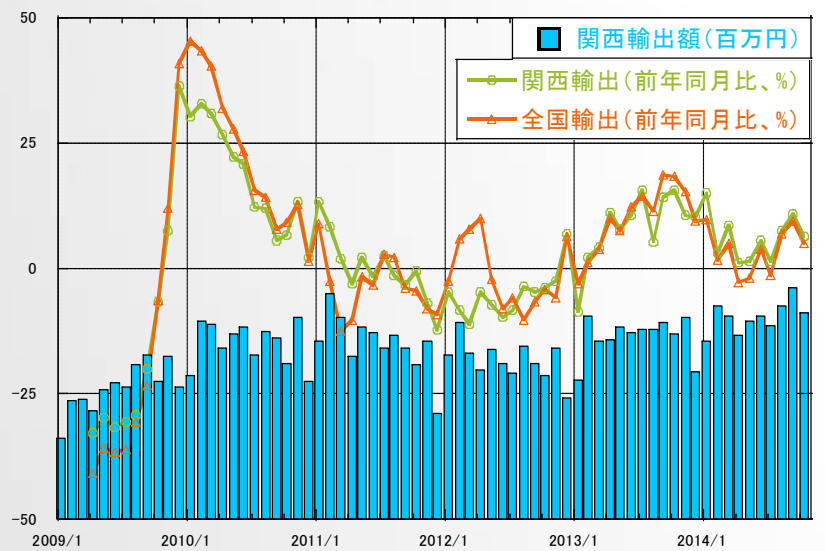


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における11月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は97.8となり前月比-0.6%、出荷は97.2で同-1.4%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は112.4で同+1.0%と3カ月ぶり上昇となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-3.5%)、電気機械(同-2.3%)、金属製品(同-3.7%)等を中心に減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+2.3%)、輸送機械(同+0.5%)、窯業・土石製品(同+1.4%)は増産となった。
- 前月の製造工業生産予測調査(11月調査)では、11月(前月比+2.3%)は増産の予定であったが、足下、生産は減産となった。同12月調査では、12月(同+3.2%)は増産、1月(同+5.7%)と増産の見込みである。生産の回復には遅れが見られるものの、今後は増産が期待される。

# ～輸出入～

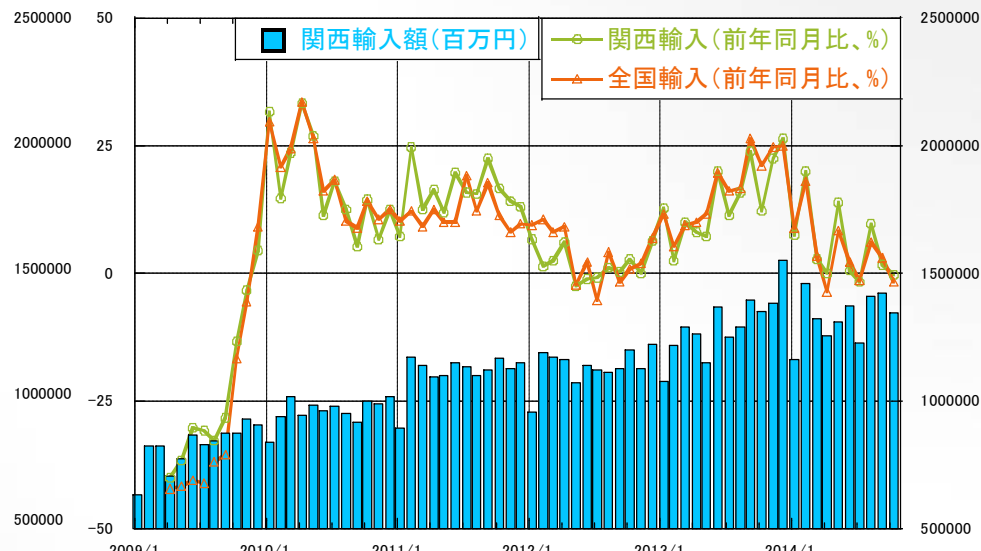
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2014年11月まで)



(出所)大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

- 関西11月の輸出額(速報値)は1兆3,224億円となり、前年同月比+6.4%と21カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品(同+17.6%)、科学光学機器(同+22.2%)であり、いずれも単月過去最高額を記録した。一方、船舶と鉱物性燃料が減少となった。
- 全国11月の輸出額(確報値)は6兆1,886億円となり、前年同月比+4.9%と3カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等電子部品、科学光学機器、金属加工機械等の輸出が増加したが、船舶は減少した。

輸入動向 (右: 輸入額、左: 前年同月比) (2014年11月まで)

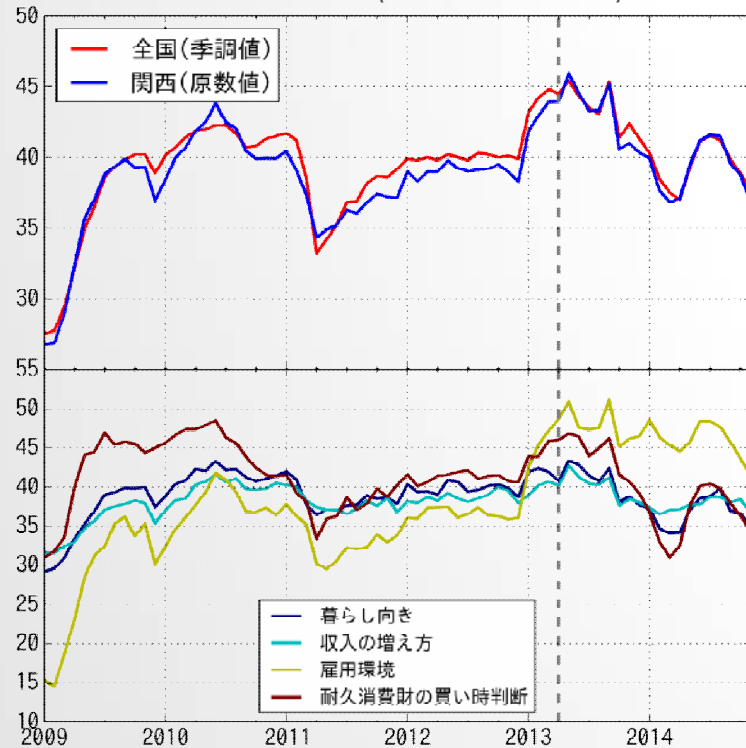


(出所)財務省「貿易統計」

- 関西11月の輸入額(速報値)は1兆3,443億円、伸びは前年同月比-0.3%と3カ月ぶりの減少。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(同+30.6%)(単月過去最高額)、有機化合物等(同+21.3%)が増加したものの、原油及び粗油(同-26.2%)、医薬品(同-20.0%)の輸入は減少した。
- 全国11月の輸入額(速報値)は7兆821億円、前年同月比-1.6%と3カ月ぶりの減少。財別に見れば、液化天然ガス、通信機が増加したものの、原粗油、石油製品、石炭等の輸入が減少した。
- 結果、11月関西の貿易収支(速報値)は-219億円と2カ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は前年同月比-79.3%縮小した。全国11月の貿易収支(速報値)は-8,935億円と29カ月連続の赤字も、赤字幅は同-31.3%縮小した。

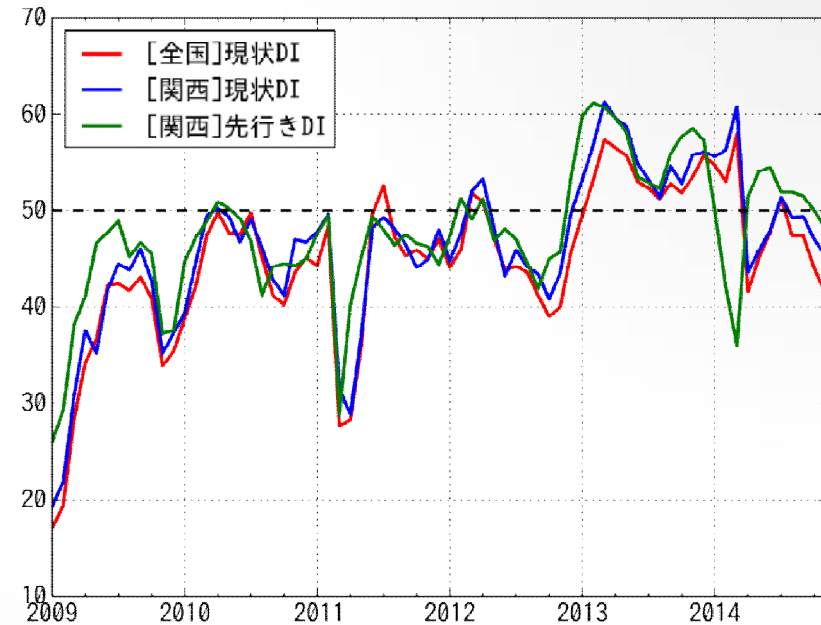
# ～消費者センチメント～

消費者態度指数(2014年11月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(2014年11月まで)



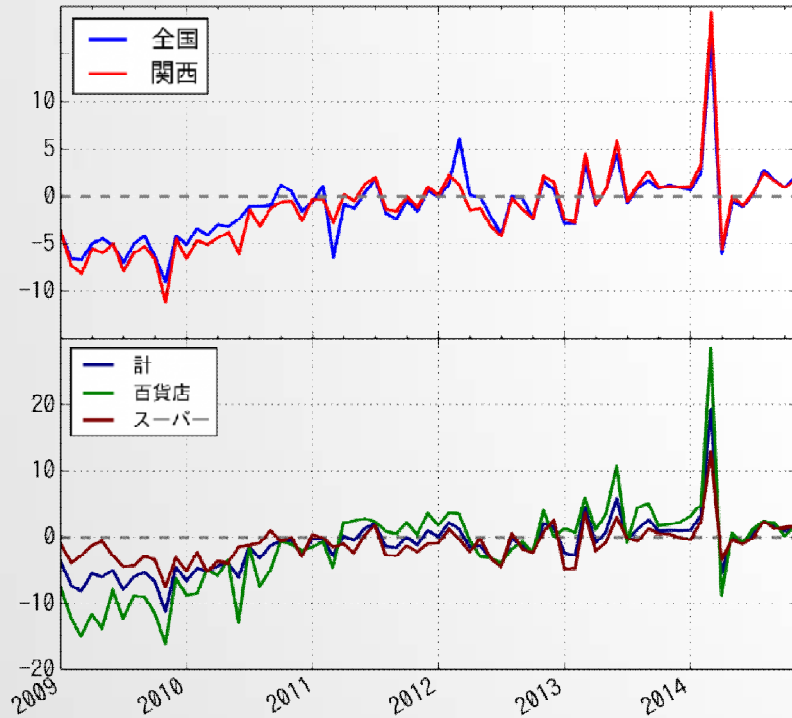
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の11月の消費者態度指数(原数値)は前月比-2.0ポイントの36.8と、4カ月連続の悪化。消費増税直前(2014年3月)のボトム水準と並ぶ結果となり、消費者心理の停滞感が増してきた。
- 同指数の構成項目をみると、4つの指標全てが前月からマイナスとなった。「暮らし向き」は同-1.8ポイントと3カ月連続のマイナス。「雇用環境」は同-2.3ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同-1.9ポイントといずれも4カ月連続のマイナス。「収入の増え方」も同-1.8ポイントと2カ月ぶりにマイナスに転じた。
- なお全国の11月の消費者態度指数(季節調整値)は37.7となり、同-1.2ポイントと4カ月連続の悪化。

- 関西の11月の現状判断DIは前月比-1.6ポイント下落し45.4となった。2カ月連続のマイナスとなり、4カ月連続で50を下回った。
- 一方全国は同-2.5ポイントと2カ月連続で下落し41.5となった。2014年4月(41.6)以来の低水準。
- 先行き判断DIは、関西では同-1.8ポイント低下し、48.2となった。3カ月連続の悪化で、8カ月ぶりに50を下回った。
- 全国では44.0となり、同-2.6ポイントの低下。6カ月連続で悪化している。

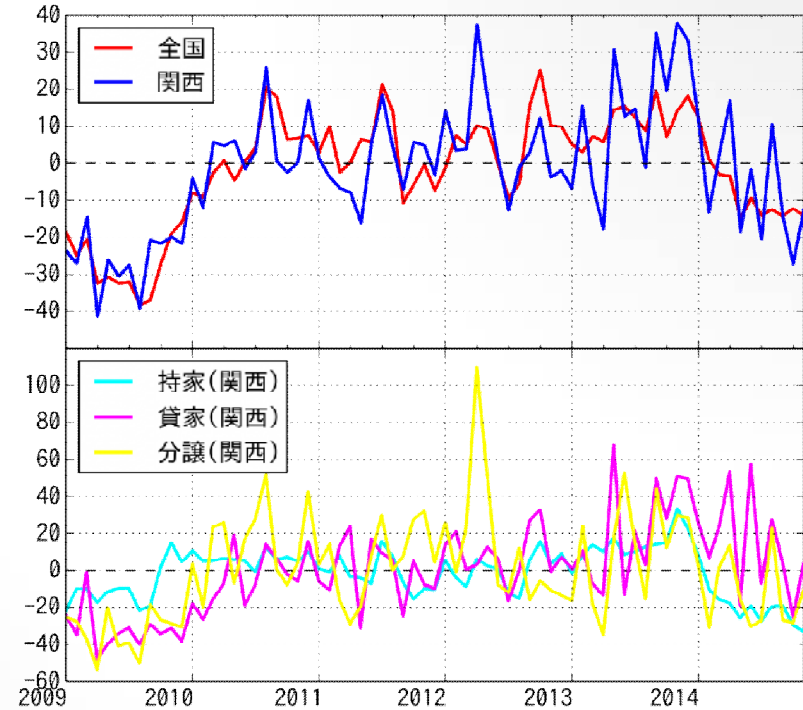
# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年11月まで)



(注)福井県を含む。  
(出所)経済産業省「商業動態統計」

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年11月まで)

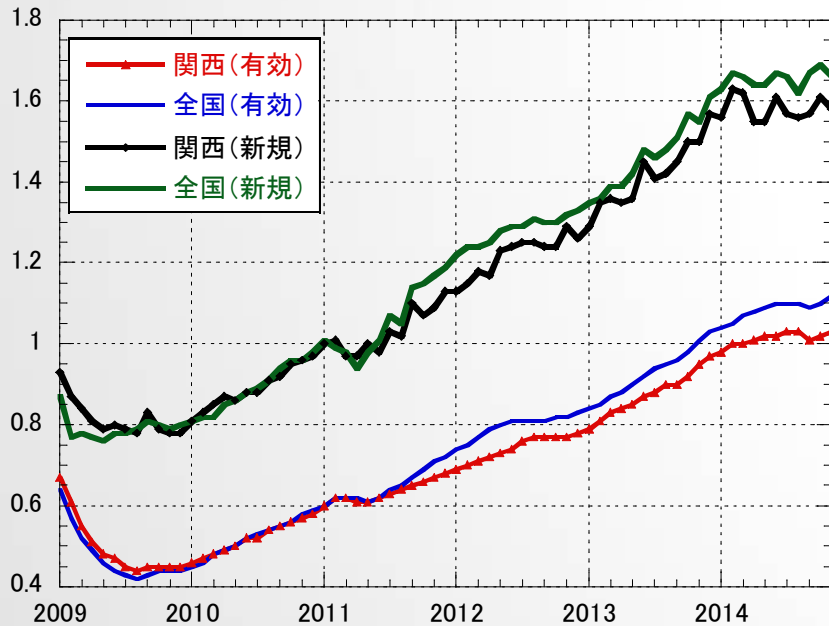


(出所)国土交通省「住宅着工統計」

- 関西の11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.7%と5カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+1.7%と5カ月連続のプラス。
- スーパーも同+1.7%と4カ月連続のプラス。
- 全国でも、11月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+2.0%と5カ月連続のプラスとなっている。
- 関西、全国ともに消費は増税後緩やかながら改善を続けている。
- 関西の11月の新設住宅着工戸数は12,192戸。前年同月比-12.5%と2桁の大幅減が3カ月続いている。
- 全国でも同-14.3%と9カ月連続で減少している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-33.2%と10カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-10.1%と2桁減が3カ月続いている。一方貸家は同+4.3%と2カ月ぶりに増加した。
- なお、11月の関西マンション契約率は84.3%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を38カ月連続(原数値は10カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

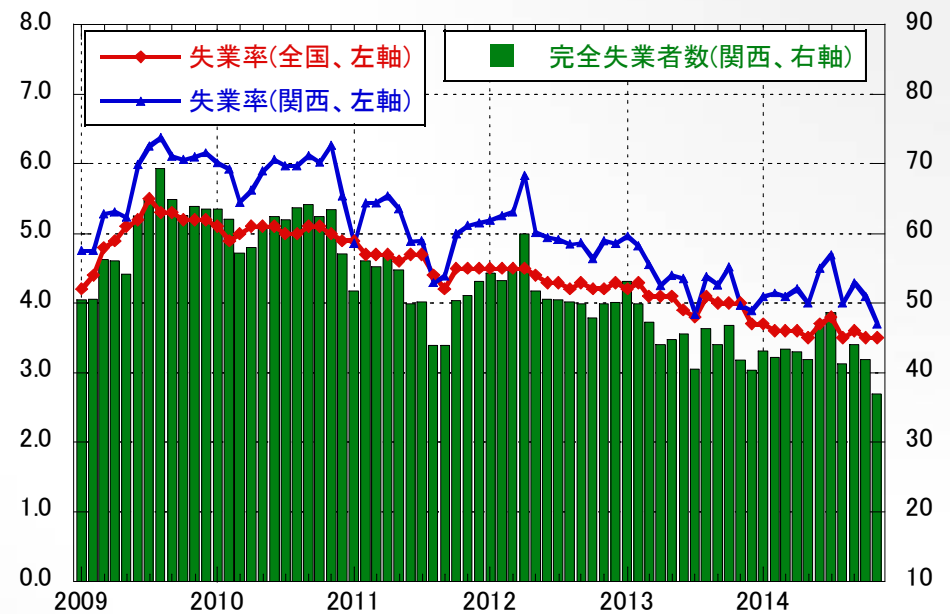
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年11月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移（季節調整値：％、万人、2014年11月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(2014年11月)

11月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.12	1.03	0.94	1.08	1.12	0.92	0.84	0.95
就業地別	1.12	1.02	1.11	1.11	1.00	1.00	0.97	1.06

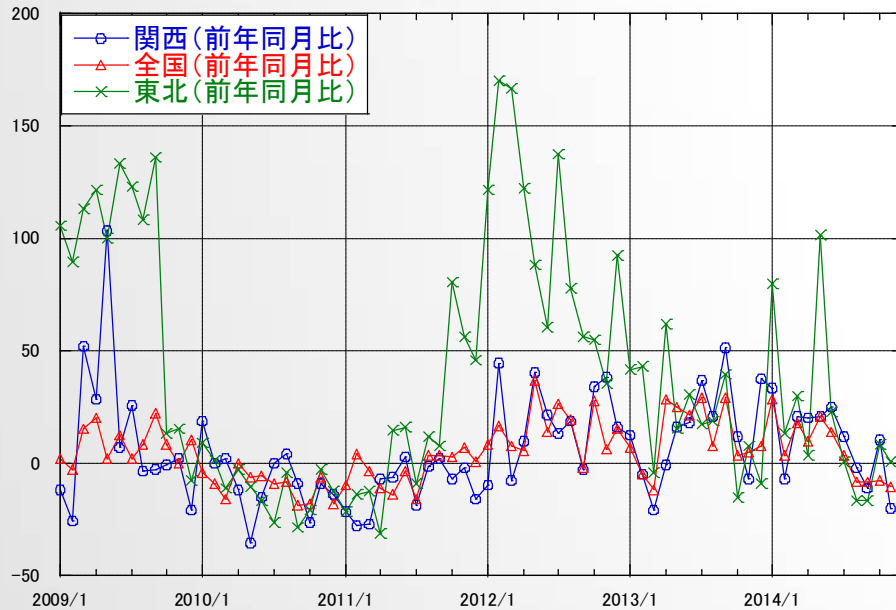
- 11月の関西の有効求人倍率は、1.03倍と前月比+0.01ポイント上昇し、2カ月連続の改善となった。全国は1.12倍で前月比+0.02ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の改善。1992年5月(1.13倍)以来の高水準を維持している。
- 11月の関西の新規求人倍率は、1.58倍と前月比-0.03ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。全国は1.66倍と同-0.03ポイントでこちらも2カ月ぶりに低下した。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、多くの府県で改善したが、奈良県で悪化。就業地別では大阪府で3カ月ぶり、兵庫県では2007年11月以来の1倍台を回復した。

- 11月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.7%となり、前月(4.1%)から-0.4%ポイント低下し、2カ月連続の改善。非労働力人口の増加(労働力人口の減少)が就業者数の減少を上回ったためである。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は36.9万人。前月(42.0万人)から-5.1万人と大幅な減少となった。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月(3.5%)から横ばい。非労働力人口の増加が失業率を押し下げた。
- 全国の15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、73.0%と前月(73.1%)と比べて下落したものの、高水準。15～64歳の女性の就業率は64.5%と前月と横ばいで過去5最高が続いている。



# ～公共投資～

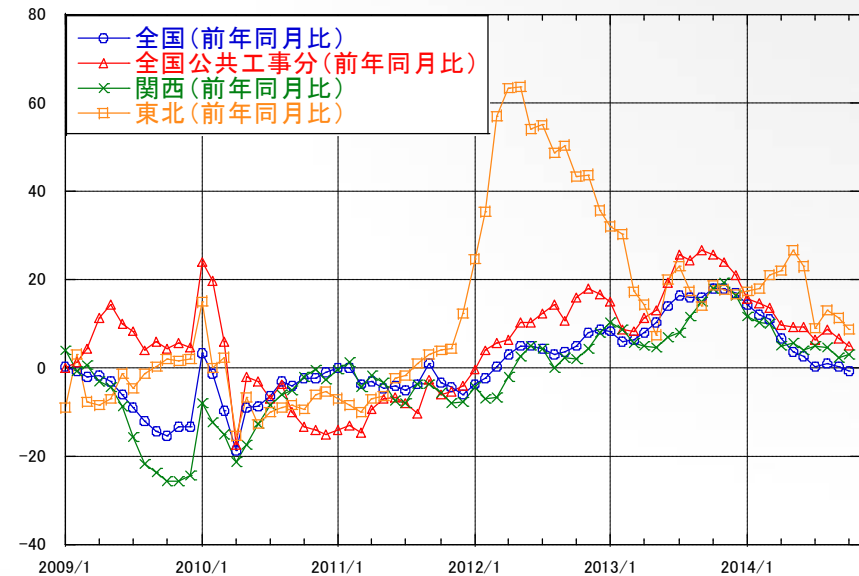
公共工事請負額(前年同月比:%、2014年11月まで)



(注)福井県を含む。  
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 11月関西の公共工事請負金額は889億円で前年同月比-20.0%と2カ月ぶりの大幅減少。
- 全国は8,437億円で同-10.4%と4カ月連続で減少。東北は1,802億円で同+1.0%と、2カ月連続の増加も、伸びは前月(同+8.7%)から減速した。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月連続で前月から大幅な減少となった(関西：同-32.4%、全国：同-30.9%)。公共工事受注は減速感が強まっている。

建設工事(前年同月比:%、2014年10月まで)

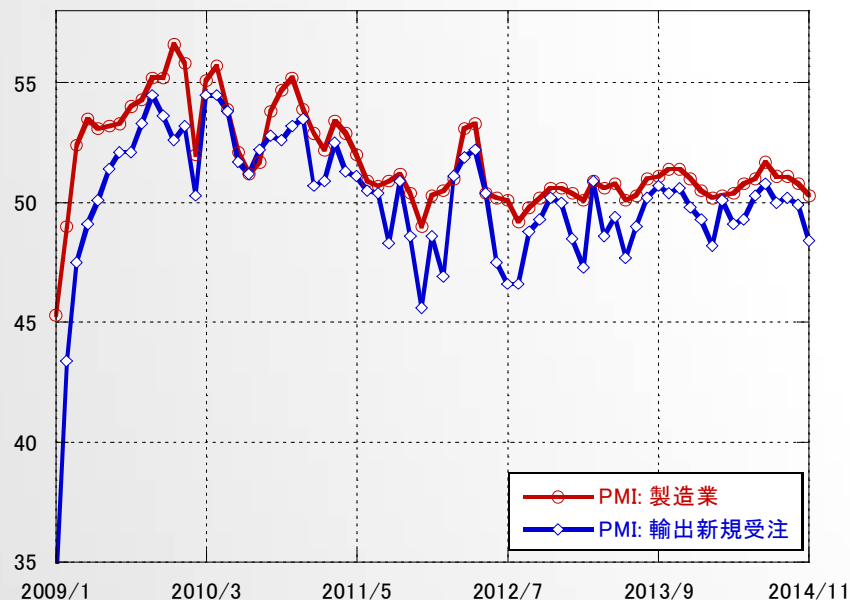


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西10月の建設工事は5,565億円、前年同月比+3.0%と30カ月連続の増加も、伸びは7カ月連続で1桁となった。
- 東北は5,960億円、同+8.6%と39カ月連続の増加も、伸びは前月(同+11.4%)から低下し1桁となった。
- 全国は4兆5,226億円となり同-0.6%と32カ月ぶりの減少。全国の公共工事は2兆988億円で同+5.1%と33カ月連続の増加も伸びは7カ月連続で1桁にとどまった。
- 住宅着工の落ち込み等により全国がマイナスに転じた他、関西も1桁が続く等、建設工事の伸びは減速している。

# ～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年11月まで: %)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、50.3となり、前月から-0.5ポイント低下し、2カ月連続の悪化。
- うち、生産指数は52.5と同-0.6ポイント低下し、2カ月連続の悪化。新規受注指数は50.9となり、同-0.7ポイント低下し、4カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は同-1.5ポイント大幅低下し48.4となり、2カ月連続で50を下回った。加えて、雇用指数は48.2となり、前月から-0.2ポイント低下し、2カ月ぶりのマイナスとなった。2012年6月以来、30カ月連続で50を下回っている。
- 景況指数は全て前月から悪化した。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年11月まで: %)

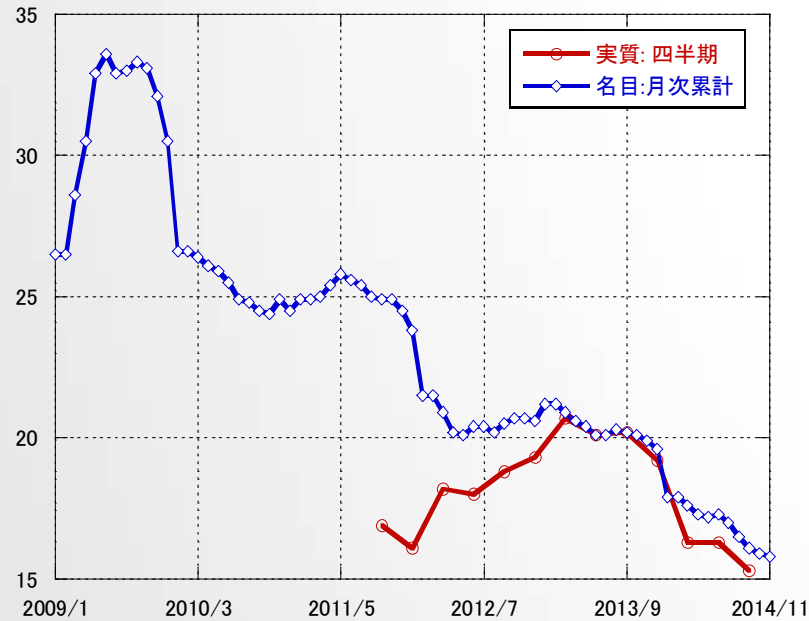


(出所) 中国税関; CEICデータベース (APIR計算)

- 11月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+4.7%増加し、8カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-6.7%(速報値)となり、3カ月ぶりにマイナスに転じた。
- うち日本への輸出額は同-5.8%となり、4カ月連続のマイナスとなった。日本からの輸入額は同-8.0%となり、3カ月ぶりのマイナスに転じた。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+9.4%となり、9カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+7.0%となり、3カ月連続のプラスとなった。

## ～中国経済動向②～

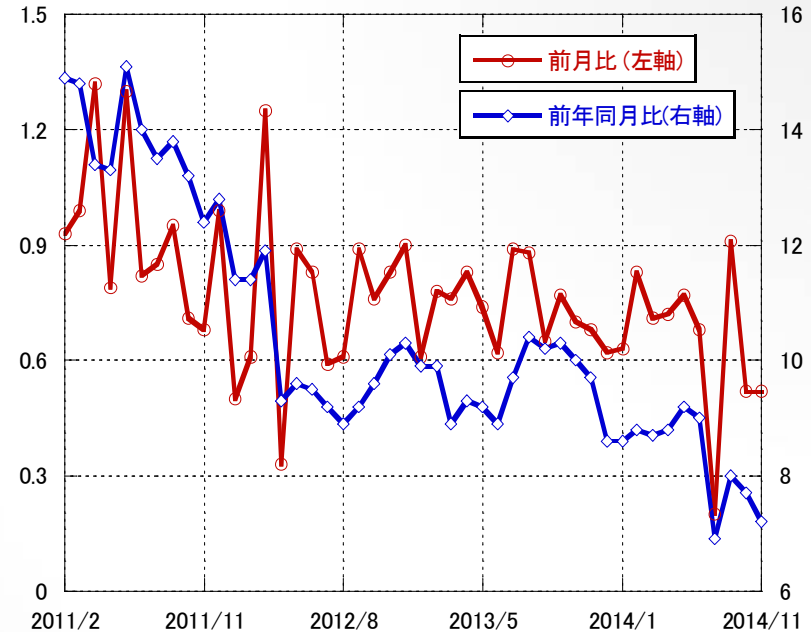
固定資産投資 (2014年11月まで:%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局;CEICデータベース

- 2014年1-11月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+15.8%となった。5カ月連続で減速している(1-10月期: 同+15.9%)。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+29.9% (前月+28.9%)、第2次産業は同+13.3% (前月+13.4%)、第3次産業は同+17.1% (前月+17.4%) となった。

工業生産動向(2014年11月まで:%)



(出所) 中国国家统计局;CEICデータベース

- 11月の工業生産は、前月比+0.5%と、前月と同じ伸びとなった。前年同月比は+7.2%となり、前月から-0.5ポイント低下し、2カ月連続の減速。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(同+12.9%)、医薬製造業(同+12.9%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.6%)、有色金属圧延加工業(同+11.4%)が高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+5.9%)、専用設備製造業(同+5.4%)、電力・熱力生産・供給業(同+2.0%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- ・ センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。